

第4章 整備基本計画の理念と方針

■第1節 史跡整備の基本理念

岩瀬地方に初めて置かれた古代寺院である上人壇廃寺跡は、当時の役割を終え、周辺環境が変わり続ける中でもこの地にあり続け、現代にまで伝えられてきました。遺跡の意義を後世に伝えようと、連綿と続けられてきた調査と保護の取り組みによって守られた貴重な遺構をこれからも保護しながら、現代の暮らしの中に活かされる存在として整備します。この整備により、市内外の人々の歴史学習や文化的活動を促し、歴史の力によるこころ豊かな暮らしづくりを目指していきます。

特に、上人壇廃寺跡は須賀川市の顔である駅から望む奈良時代の遺跡であり、駅周辺に展開する奈良時代岩瀬地方の中核施設群の配置が一望できる遺跡です。まちの原点・原風景でもある史跡の本質的価値を生かした歴史学習の場として、同時に緑地における憩いや安らぎ、活気を得られる活動の場として整備していきます。

基本理念キャッチフレーズ

時空（とき）の駅 上人壇 時をこえて人・もの・心が行き交う史跡公園

上人壇廃寺跡は、「都と地方」「過去と現在・未来」「日常と非日常」「市民と訪問者」などが自由に行きかい、つながりあえる場所です。

■第2節 史跡整備の基本方針

「上人壇廃寺跡保存活用計画」で掲げているスローガン「市民とともに育む古代寺院上人壇廃寺跡」を基本に、6つの方針を踏襲しながら、次の4つの観点で整備を進めていきます。史跡の本質的価値が表現された空間を、市民と来訪者の学習の場・憩いの場として、また、史跡公園として、地域活性化を支える多様な市民活動の場として活用できる取り組みを行います。栄町遺跡・うまや遺跡・米山寺跡（米山寺経塚群）など周辺に存在した古代石背郡関連遺跡を含め、岩瀬地方の古代についての情報を上人壇廃寺跡に集約し発信します。

- 上人壇廃寺跡の保存を第一として、未来へ継承する。
- 市民・来訪者の憩いの場としての活用を図る。
- 古代の石背郡に関わりのある遺跡を含めた情報発信や市民の活動拠点として活用する。
- 上人壇廃寺跡の整備を行い、古の遺跡の特徴を表現する。
- 眺望など古代に思いを馳せる空間として整備する。
- 地域住民、市民、関連団体、行政が協働する管理運営の構築を目指す。

(1) 守る【保存】

上人壇廢寺跡の遺構と遺物、本質的価値を保存し、未来へ継承します。地上・地下における遺構の保護措置と、遺物の保存管理対策を十分に講じ、時間の経過とともに増していく価値を付加して次世代へと引き継ぎます。

(2) 整える【整備】

上人壇廢寺跡が機能していた当時の建物・地形・眺望を考証し、現実的空間はもちろん仮想空間においても特徴を表現します。現代の喧騒を離れて古代と未来に想いを馳せ、悠久の時間の中で安らげる空間として整備します。史跡での学習や活動の充実に必要な設備を整備します。

(3) 生かす【活用】

史跡の本質的価値が表現された空間を活用した、市民と来訪者の学習の場・憩いの場として、また、史跡公園としての憩いの場、地域活性化を支える多様な市民活動の場として活用できる取り組みを行います。栄町遺跡・うまや遺跡・米山寺跡（米山寺経塚群）など周辺に存在した古代石背郡衙関連遺跡を含め、岩瀬地方の古代についての情報を集約し発信します。

(4) 育てる【維持】

史跡と関連事項についての調査を継続し、新たな研究成果を反映していく「育てる史跡公園」を目指します。市民・地域住民・関連団体・行政の協働による指定地とデジタルサイトの管理運営を進め、「みんなで作り、みんなで使い、みんなで守る史跡公園」として継続的に活用していきます。

■第3節 デジタル空間における史跡の記録保存と活用

史跡等の調査成果は、これまで一般に、遺構図面や写真などの媒体により記録・保存されてきました。しかし、整備後にもさらなる探求を進め、あるいは解説などのためのコンテンツを作成し史跡の価値を利用者に共有する上では、そうした調査データ自体のデジタル化が必要です。また、このデータにより史跡の整備をこれまでにない形で展開することが可能になります。上人壇廢寺跡においては、地形や遺構・遺物情報等についてもデジタルデータによる記録や保存を進め、史跡の管理や整備、活用に役立てていきます。

これまでの史跡整備は、遺跡が機能していた当時の遺構を保存し復元することが主な課題であり、遺構を保存し表現するための盛土や舗装、構築物を現地に整備した後は、整備前の景観を振り返ることは困難でした。上人壇廢寺跡は、寺院が廢絶してからも地表に残り続けた基壇建物跡が地名の由来となり、寺院跡の存在を知らせていたことや、都市化が進む中で緑豊かな広場として残っていたことなどを含め、仮想と現実の双方向から表現する整備を行います。

(1) デジタル空間における史跡の記録・保存・活用

上人壇廃寺跡において建造物の立体的復元は、当該遺跡を理解するための核心的な作業となるものと期待されます。しかし、建造物の地上部分についての十分な情報が得られていない現状では、過度にイメージを限定してしまうことが危惧されます。そこで、ここでは、検出された遺構データなどに基づいて建造物のデジタル復元を行い、AR(拡張現実)/VR(仮想現実)等のDX(デジタルトランスフォーメーション)を通して多様な可能性が体験できるようにします。

こうしたデジタル復元は、現地での遺構表示などと相まって、当時の建築空間を理解する上でのたすけとなるばかりか、傍を通る鉄道から史跡を眺める多数の人たちに上人壇廃寺跡の存在を印象づけ、またさらには、ウェブサイトや解説ビデオなどのための様々なコンテンツ制作の基本情報として役立てられることと期待されます。

(2) デジタル空間における遺物の記録・保存・活用

上人壇廃寺跡の本質的価値を構成する重要な要素である出土遺物について、デジタル的手法による記録をとり、原資料・図面と同様に保存するとともに、それらを現地での表現に活用します。史跡現地に遺物の情報を重ねることにより、史跡の本質的価値への理解を深化させます。

(3) デジタル的手法による遠隔地での史跡の活用

データ化したパンフレットや解説はもちろん、遺構や遺物、史跡現地についてのデジタルな記録や表現は、史跡を訪れることのできない利用希望者にも提供することができます。史跡現地や遺物に直接接することで得るものとは異なる情報や感動を、デジタル技術を通して、史跡現地ではもちろん遠隔地でも得ることのできる機会を提供します。



第 74 図 史跡の地形・出土遺物のデジタル化作業